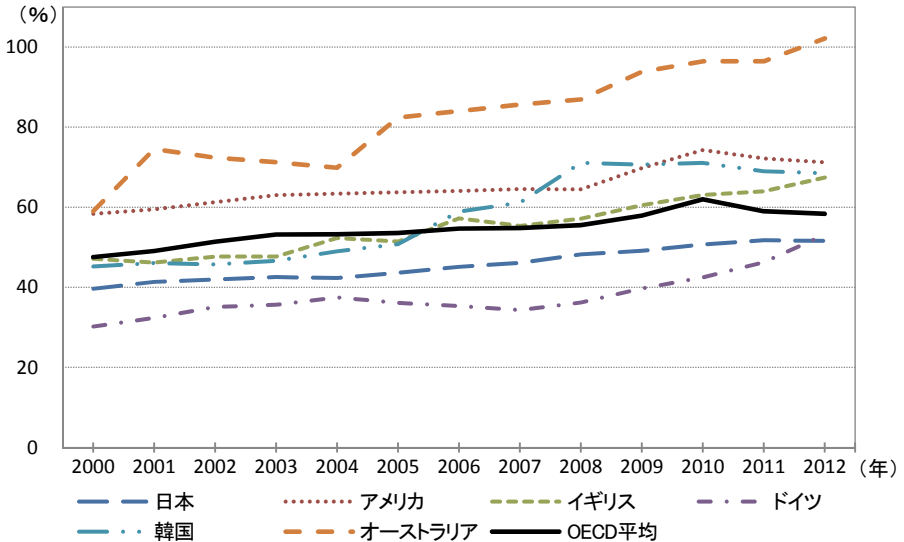


## 8-1 高等教育への進学率（大学型高等教育機関）



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第8-1表 高等教育への進学率」(p.232)参照。

高等教育機関への進学率の国際比較は、各国の教育制度が異なっているため容易ではない（「第8-2表 各国の学校系統図」参照）。

OECDは、毎年発行する『Education at a Glance』において、各国の高等教育機関への進学率を掲載している。

上のグラフは、各国の大学型高等教育機関（日本では大学学部に対応）への進学率を示している。OECD平均の大学型高等教育機関への進学率は、2000年の47.6%から2010年には62.0%まで上昇したが、その後は経済危機の影響により低下傾向にある。2012年は58.3%となり、2000年の47.6%から10.7ポイント、1995年の38.6%から約19.7ポイント上昇している。

非大学型教育機関（日本では短期大学及び高等専門学校、専修学校専門課程に対応）への進学率は比較的低く、OECD平均で2000年が15.6%、2012年が18.1%である。2012年の各国の進学率は、日本が28.4%、韓国が36.0%、ドイツが21.8%、イギリスが19.7%などとなっている。

なお、国際標準教育分類の改訂により、「大学型」と「非大学型」という高等教育の区分は見直され、「学士課程相当」「修士課程相当」「短期高等教育」に再編された。このため、2012年以前と接続しないが、日本では大学学部に対応する「学士課程相当」への2013年の進学率は、日本48.4%、イギリス57.7%、ドイツ48.1%、OECD平均57.0%などとなっている。